

アジア・アフリカの貧困や 教育問題解決のため、 留学生が庄内研修



今年で24年目となる「アジア学院留学生の庄内研修」が、鶴岡市有機農業推進協議会の主催で21日から31日まで10日間おこなわれます。

月山パイロットフアームやJA庄内たがわ、藤島庁舎エコタウン室、庄内協同フアーム、共立社、庄内産直センターなどで学び、24と25日は農家にホームステイして農業実習をおこないます。

アジア・アフリカからリーダー13人が、貧困や教育、農村開発のため学びます。

『地名シリーズ』 大沼 浩先生がご逝去

鶴岡工業高等専門学校名誉教授の大沼 浩先生が10日逝去され、17日に家族葬が行われました。享年90歳。

大沼先生は1928年生まれ。東京大学文学部英文学科を卒業し、県立高校を経て1966

4年に鶴岡高専に英語科の教師として採用され、1992年に定年退職。その間山形大学でも6年間教鞭をとられ、退職後は高崎商科短大教授に就任。

平成20年度の春の叙勲で「教育研究功労」により瑞宝章受章。

時事英語や英語教育に関する論文多数。



8月5日と6日の大雨で林道と市道の崩壊が発生し、復旧の見通しはまだ未定です。



林道五斗畑線 路肩・路面崩壊・長さ約12m
市道添川筋沢線 道路崩壊・土砂流出・長さ約17m（写真・藤島庁舎）

著書に「庄内地名切絵図」（1985年・雪山杉荘書房）、「庄内地名のロマンス」（1998年・鶴岡書店）、「庄内地名辞典」（2000年・雪山杉荘書房・頒価20万円）など。

2004年から本紙に「地名」「言葉」など寄稿を多数寄せられ、「庄内地名辞典」をHPに提供頂きました。亡くなる前まで、フランス語の小説を辞書を片手に読んでいたとすることで、終生勉強家でした。加藤鉦一議員が家族葬で弔辞を読み上げました。

【絵を描く】 農に生きる

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

人物デッサンではモデルに女性が多いが、私たちの絵の会では、たまに男性をモデルにして描くことがある。会に農民のWさんがいるが、なかなか仕事に忙しくて絵を描く暇がないと嘆いている。

ある時そのWさんにデッサンのモデルになつてもらおうように頼んだ。写生に入る前に農業の現状についていろいろと話を聞いた。

66歳、5町歩の田んぼと2反歩の畑、それに60本の柿の木を奥さんと2人でやっているという。後継者がいないのが一番の悩みで、それに農産物の自由化で価格が下がっていくのも不安。村の農家みんなが法人組合を作って頑張っているが、それでも10年先は暗い。若者たちが農業に見切りをつけて村を離れていき、空き家が目立ってきた。村周辺の耕作放棄地が増え、雑草で田んぼが見えなくなるほどだ。農産物の価格保障をしっかりとやってほしい。それに大豆やそば等を植えている転作地にも補助も出してほしい、という。

ところで、モデルとしての装いやポーズを今回は本人に任せるところにした。彼は考えた揚げ句、普段着のまま草刈機を抱えて正面に向かって胸を張った。顔も肌も陽に焼けて赤銅色だ。背筋を伸ばして構える姿には、長年農業に生きてきた労苦が滲み出ていた。長時間の写生中、彼はその姿勢を崩さなかった。

Wさんの話を思い出しながら筆をすすめた。国民の命を支えているのが農業だ。日本の食料自給率は38%（2016年）で、先進諸国では最低だという。農業と農民を守るのが我が国の最重要政策ではないのか。

しかし政府は農産物の輸入を次々と自由化し、TPPの国会批准を強行した。農民まかせでなく、国民みんなが本気になつて考えていかなければならない、差し迫った問題だと思つた。



旧盆、そして終戦

「蚤虱 馬の尿する枕許 芭蕉」
芭蕉「奥の細道」の旅で元禄2年(1688)9、最上町封人の家で詠んだ。329年の年月が流れている。

封人の家で芭蕉が経験した馬の尿の音は、昭和30年頃まで一般の農家では聞こえていた。蚤虱にはこの頃全くお目にかかれなくなつた。跳び跳ねる蚤をヤツと生け捕りにして、親指か人差し指の爪でプツツンと潰す快感？を経験した人は今何人残つておるだろうか。

戦中戦後、私たち生徒は加茂や鼠ヶ関で海洋訓練と称して合宿に行つた。岐路必ず持ち帰るお土産があつた。歓迎されざる虱の集団である。下着の縫い目に虱の20匹くらいが1列縦隊で整列しているのだ。蠢いているとの表現が適切か。帰りの藤島駅での改札口には駅員が2人待ち構えていて、1人は切符の改札、あとの1人はDD

Tの噴霧器を持つていて、女生徒なら頭髮の虱へ向けて、男なら首筋のシャツを無理矢理はだけてDDTを噴射する。今の世ならマスコミが人権蹂躪と大騒ぎするでしょうね。

農村では農作業に集中する日中、赤ん坊のいる家庭では藁で編んだ「いずめこ」に赤ん坊をタコンと入れておく。大小便は垂れつばなしで、赤ん坊の顔は蠅の糞で真っ黒。今から



50年程前の農村の日常風景だつた。

ふと東の窓から道路を覗く。晴天の下、日傘を差した若い女性が軽装でゆつくりと体育館方向へ歩いていく。平和がこのまま続いてほしい…。

日本人と憲法 NHK世論調査から考える⑥ 憲法改正論議進めるより ほかの問題を

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

今の憲法改正論議を進めるべきか、ほかの問題を優先すべきかについて、全体では「ほかの問題」54%、「改正論議を進める」37%で、「改正論議を進める」は半数にならず、「ほかの問題優先」が半数を超えている。そして「憲法改正必要の人」でも、「ほかの問題優先」45%、「改正論議を進める」46%で、「改正論議を進める」が1%多いだけで、半数になつていない。さらに、自民党支持層でも「ほかの問題を優先すべき」が54%と半数を超え、「憲法改正の議論を進めるべき」は37%にとどまつている。

城貞(藤の花)

蝸牛角上 何争いをか訟

百戦功 成つて万骨 撃ぐ

老少 紅粉 私かに自から借しむ

査行米国作原兵 これ米国をして原兵を作ら行れしを

蝸牛角上訟何争
百戦功成万骨撃
老少紅粉私自借
査行米国作原兵

かたつむりの、つもの、のような小さな世界で、何の言い争いを騒ぎ立てているのだ。多くの戦いの功績のかけには、多くの人の生命が失われているのだ。年より、子ども、女性、弱い人たちは、一人でひそかに悲しんでいる。ああ、どうしてアメリカに、恐ろしい原子爆弾という武器を發明させたのだ

この状況は、次の設問「憲法改正論議にどの程度関心があるか」ではつきりしてくる。

「非常に関心がある」18%、「ある程度関心がある」51%、「あまり関心がない」23%、「まったく関心がない」7%で、「非常に」と「ある程度」を合わせた「関心がある」は69%に上り、「あまり」と「まったく」を合わせた「関心がない」は30%である。

「非常に関心がある」

18%は賛否両者がふくまれる。だから改正賛成で「非常に関心がある」は減ることになる。そして「関心がない」が30%、「ある程度関心がある」51%は、消極的なものと考えると、民意と政府与党の積極的推進とは温度差がある。

だからと言って改正を軽視してはならない。権力を持つものはあらゆる陰謀術策を行つからである。



正しい報道こそ

米国の400もの新聞社が

「きびちよ」でいいんです。それを選挙民ヨ。貴方達のせいで国民には大災害が続くんですぜ。

聞社が「同じ内容で社説を出したんだ」とそれは政治を批判する記事を、フエイク(ウソ)だと決めつけるトランプ大統領に反撃したものだと言う。民主主義の大本だと言われ、日本でも真似たらどうだろう。首相にはウソが多すぎると・ネ。

▲そこに出てきたのが

「公正」「正直」を掲げた自由出鱈目党の総裁候補者だ。現総裁は首相を彼は、公正・正直でない」と認めたんだ。

▲今の情勢では、政治を私物化し、ウソ・改ざん・隠ぺいでゾッパリ通し、責任も感じない首相が有利なんだとか。民主政治ではあつてはならないことを、財務・厚労・文科各省

でやってきたんだが、これをヨシとするんだ

▲私ごとを。老人クラブの旅行オモシエガッタようだノとか、すべらんしよ食つてみだばンメガツタノーなどと聞こえてくれば嬉しくなります。また、百歳の年寄りから年金の4分の1も税金が取られるのは、よくわからなかつたとなれば、文章の仕方を工面しなければ、と反省していると、と反省しているところですが、どんな事でも読者から声が届くことは有難いことです。

(石川)